

イヌビワ *Ficus erecta* Thunb.

クワ科 Moraceae

1. 利用対象部位：木材および韌皮繊維

2. 組織形態：

〔木材〕

木材の組織構造は森林総合研究所木材データベースを参照のこと。

〔韌皮繊維〕

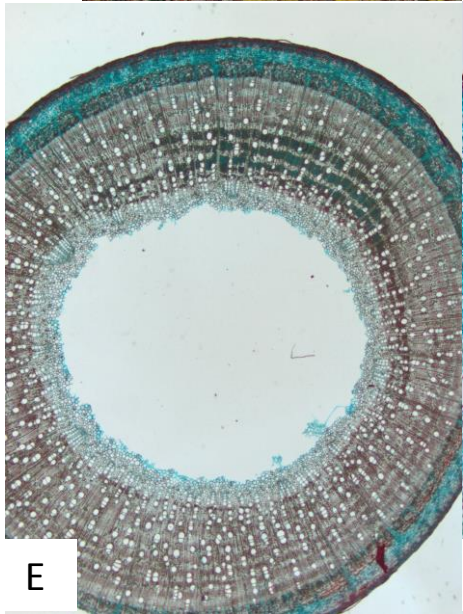
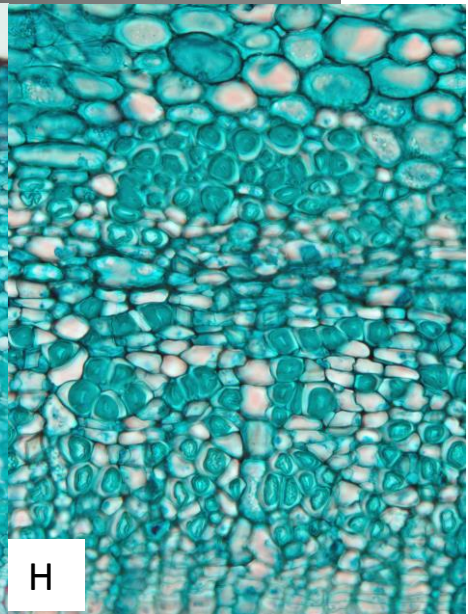
若齢の茎の髄は中実で沙流が、切片を作成するとほとんどの場合髄組織が壊れてあたかも「中空」のようになる。小さい一次維管束が環状に配列し、維管束の外方の皮層に繊維組織塊を作るが、「環状」と言うほど緻密では無い。この繊維組織塊は表皮（あるいは周皮）、皮層柔組織、繊維組織塊、一次篩部の順にあり、その内側に二次篩部が形成される。クワ科の他の植物（コウゾなど）と同様に二次篩部では機能を失った二次篩部から繊維組織が分化し、一次繊維環、二次繊維環を形成するが、繊維細胞の量は多くは無い。

利用例：現在では利用例を聞かない。

遺跡出土遺物：

佐賀市東名遺跡を中心に縄文時代のいくつかの遺跡でイヌビワの木材のへぎ材で作ったカゴ編物が知られている（佐賀市教育委員会 2017）。出土遺物から復元された制作方法は、イヌビワの樹幹最下部で下枝が無く、また志布志も無く通直な部分（長さ 1~1.5m）を採り、ミカン割りし、中心側と辺材を捨てて、板目に剥ぐ。剥いだ材は両面を調整し、幅も調整してカゴ編物を編む。イヌビワのへぎ材は柔軟で、むしろ「腰が無い」というほどである。

佐賀市教育委員会 2017. 『縄文の奇跡！東名遺跡』 雄山閣。

**A****B****C****D****E****F****G****H**

A:イヌビワ木材の採取(大分県日田市)。 **B&C:**採取された木材。樹皮からは乳液が出る。横断面には多数の成長輪がある。 **D:**作成されたへぎ材。右がイヌビワ、左はムクロジ。 **E&F:**当年生の徒長枝の横断面とその拡大。 **G&H:**一次および二次の繊維環。